

研究課題名「糖尿病性腎症における尿中 CD147/Basigin の機能の解明」に関する情報公開

1. 研究の対象

2012年5月1日から2015年3月31日までに行われた「糖尿病性腎症合併高血圧に対するスピロラクトン(アルダクトン A)の尿蛋白抑制効果に関する研究」に参加された方

2. 研究目的・方法・研究期間

名古屋大学腎臓内科教室では、「糖尿病性腎症合併高血圧に対するスピロラクトン(アルダクトン A)の尿蛋白抑制効果に関する研究」を行いました。その研究で、糖尿病性腎症を合併した高血圧の患者さんにおけるスピロラクトン(アルダクトン A)の投与は、尿蛋白低下作用があることを実証しました。

また、名古屋大学腎臓内科では、ベイシジンという蛋白に着目し研究してきました。ベイシジンは、様々な腎疾患において尿中に出現することがわかっており、腎障害時に上昇すること、腎障害を促進する可能性があることを示してきました。

(目的)

そこで今回の検討では、「糖尿病性腎症合併高血圧に対するスピロラクトン(アルダクトン A)の尿蛋白抑制効果に関する研究」研究で測定した尿中ベイシジン値を使用し、他の臨床データ、尿細管マーカーと統計学的に評価することを目的とします。

(方法)

「糖尿病性腎症合併高血圧に対するスピロラクトン(アルダクトン A)の尿蛋白抑制効果に関する研究」で作成されたデータシートを用いて統計解析を行います。

(研究期間)

実施承認日から2022年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 「糖尿病性腎症合併高血圧に対するスピロラクトン(アルダクトン A)の尿蛋白抑制効果に関する研究」の参加時に、診療上の既存情報として収集した以下の項目
 - Hb、WBC、Plts、BUN、UA、TP、Alb、Na、K、Cl、血清浸透圧、HDL-C、LDL-C、TG、AST、ALT、シスタチン C、アルドステロン、Cr、尿タンパク値、尿アルブミン値、尿クレアチニン値、尿浸透圧、尿中K
- 「糖尿病性腎症合併高血圧に対するスピロラクトン(アルダクトン A)の尿蛋白抑制効果に関する研究」の参加時に、研究目的で測定した以下の項目
 - ベイシジン、アンギオテンシノーゲン、L-FABP、NAG、 β 2MG、NGAL、MCP-1

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

特任講師 加藤 佐和子

住所 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

TEL:(052)744-2192

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

講師 小杉 智規